

DeNA 筒香選手は、日本では子どもたちの野球離れが進んでいると指摘し、その原因を三つあげた。以下、「 」内は筒香選手の語ったことである。

①勝利至上主義

「僕も小さいころに野球を始めましたが、野球を始めた瞬間から『勝たなあかん』と言われました。そして、『こうやって投げるんや』『こうやって打つんや』『こうやって走るんや』『こうやってプレーするんや』と言われてきました。」

「皆さんの時代もそうだったと思いますが、『勝たなあかんよ』『勝たないと意味がない』と言われ続けてきたんです。」

「僕は堺ビッグボーイズで中学からお世話になり、ここまでやってきましたが、今の少年野球を見ると、『楽しいはずの野球なのに、子供たちは楽しそうに野球をやっていない』と思うことがすごく多いです。」

②子どもたちは大人、指導者の顔色を見て怒られないようにプレーしている

「本来なら、いいプレーをしよう、もっと遠くまでボールを飛ばそうと思って野球をしないといけないのに、ここで打たなかったら怒られる、エラーしたら怒られると思いながら野球をやっているように思います。」

③答えを指導者や親が与えすぎるので、子供たちが指示待ちの行動しかできない

「もちろん指導者が勝ちたくなる気持ち、いろいろ教えたくなる気持ちはわかりますが、それが将来の子供たちのためになっているかと言えば、なっていないと思います。指導者も、親も言いたいのわかりますが、そこをじっくり我慢し、見守ることが大事ではないでしょうか。」

筒香選手は、このように思うようになったのは 2015 年ドミニカ共和国でウインターリーグに参加したからだ、と言い、次のように語った。

「ドミニカ共和国では指導者は何も言わずに子供たちを見守っています。そんな中で、小学生の子供たちがジャンピングスローやグラブトスを当たり前のようにやっています。指導者はそうしたプレーでミスをしてしても何も言いません。だから子供たちは失敗を恐れず、何回も失敗しながら新しいことにチャレンジしていきます。僕は、子供たちが何の躊躇もなくチャレンジしている姿を始めて見ました。」

「バッティングもとにかくフルスイングです。ドミニカには 16 歳から入ることができる MLB アカデミーを 30 球団が設置しています。これも見学しましたが、ここでも変化球を投げる子はいませんでした。ほとんどがストレートをど真ん中に投げ込む。バッターはそれをフルスイングする。というのが基本です。」

「こういうドミニカ共和国の小学生と、日本の小学生が今の時点で対戦すれば、日本のほうが大きく勝ち越すと思います。日本では小学生から変化球を投げますし、細かいプレーも身につけますから。でも、それが大人になったときには、すっかり逆転して、凄い差になっています。」